

EDMを作る

もくじ

1. シンセサイザーの基礎知識
2. オシレーター
3. フィルター
4. エンベロープ
5. モジュレーション ～基礎～
6. モジュレーション ～応用～
7. シンセの構造
8. ベース
9. プラック
10. リード
11. パッド
12. シーケンス
13. キック
14. スネア
15. ハイハット
- 16. リズムループ**
17. アレンジ

『リズムループ』

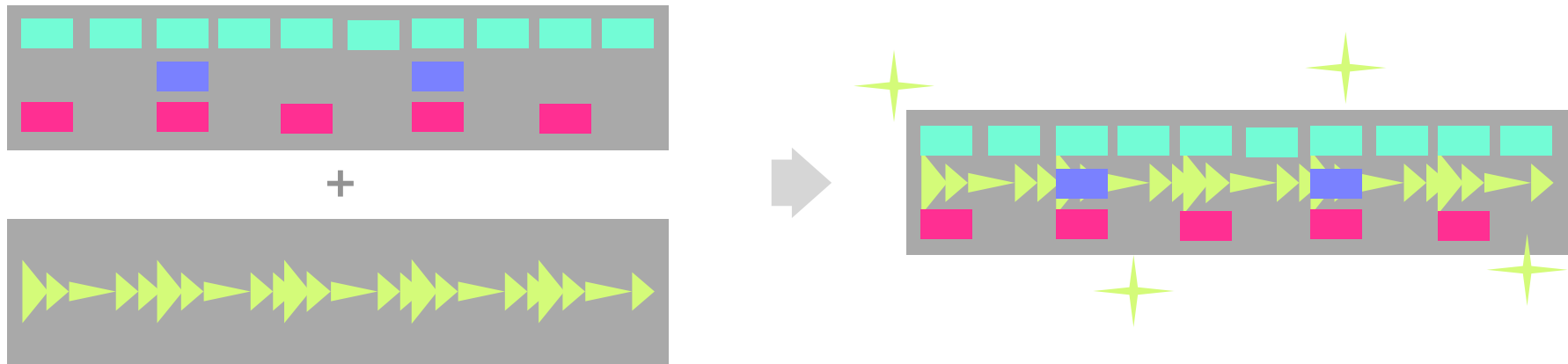
1. リズムループについて
2. リズムループの組み込み 1
3. リズムループの組み込み 2
4. リズムループをフィルなどで使う
5. まとめ

1. リズムループについて

フューチャーベースにおけるリズムループの役割

ドラム3点だけでは作り出せない雰囲気をもリズムループを足すことによって新たに作り出すことができます。

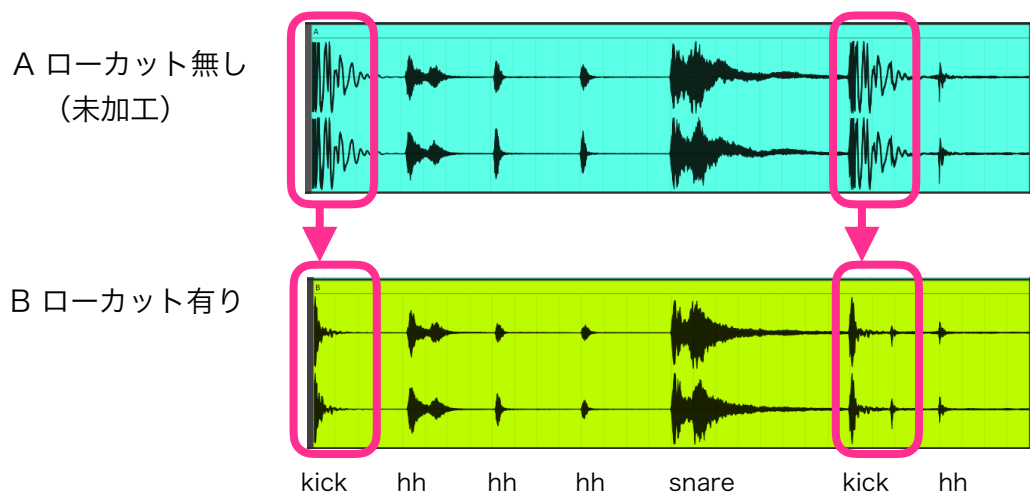
細かいリズムなどによるグルーブの強化や、サンプルが持つ空気感を取り入れることで楽曲の雰囲気を魅力的に演出することができます。



2. リズムループの組み込み 1

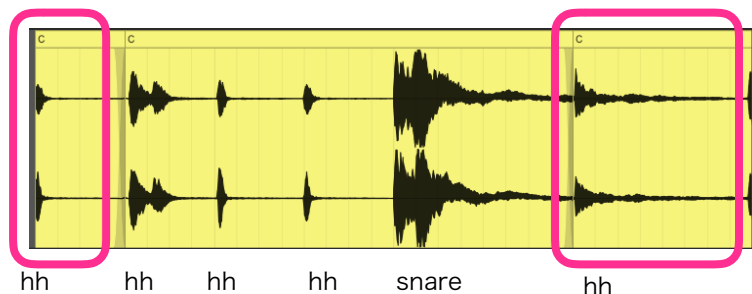
リズムループにキックが入っている場合は、メインのドラムのキックの邪魔にならないように目立たなくする、または取り除く。空いた所に別の場所のサンプルを移植して自然に聞こえるように整えていきます。

方法1： ローカットを入れてキックを目立たなくする。



完全にキックの音が消えたわけではなく、低音域以外の音は残ったまま。
スネアの低音域にも少し影響が出る。
作業工程が少ないのでアイデアをすぐに形にできる。

方法2： キックを取り除き、空いたスペースに別の場所のサンプルを移植する。



『方法1』よりもサンプルを切ったり貼ったりするので手間はかかるが、余計な音をほぼ取り除けるので音質を変えないでリズムループを使うことができる。

3. リズムループの組み込み2

2つ以上のリズムループをレイヤーして、多様なグルーブを作り出すことができます。リズムループをレイヤーすることで複雑で奥行きのあるリズムを作ることができます。

レイヤーするときのコツは似たようなリズムループをレイヤーするのではなく、それぞれが程よく異なっているものをレイヤーするとうまくいきやすいです。

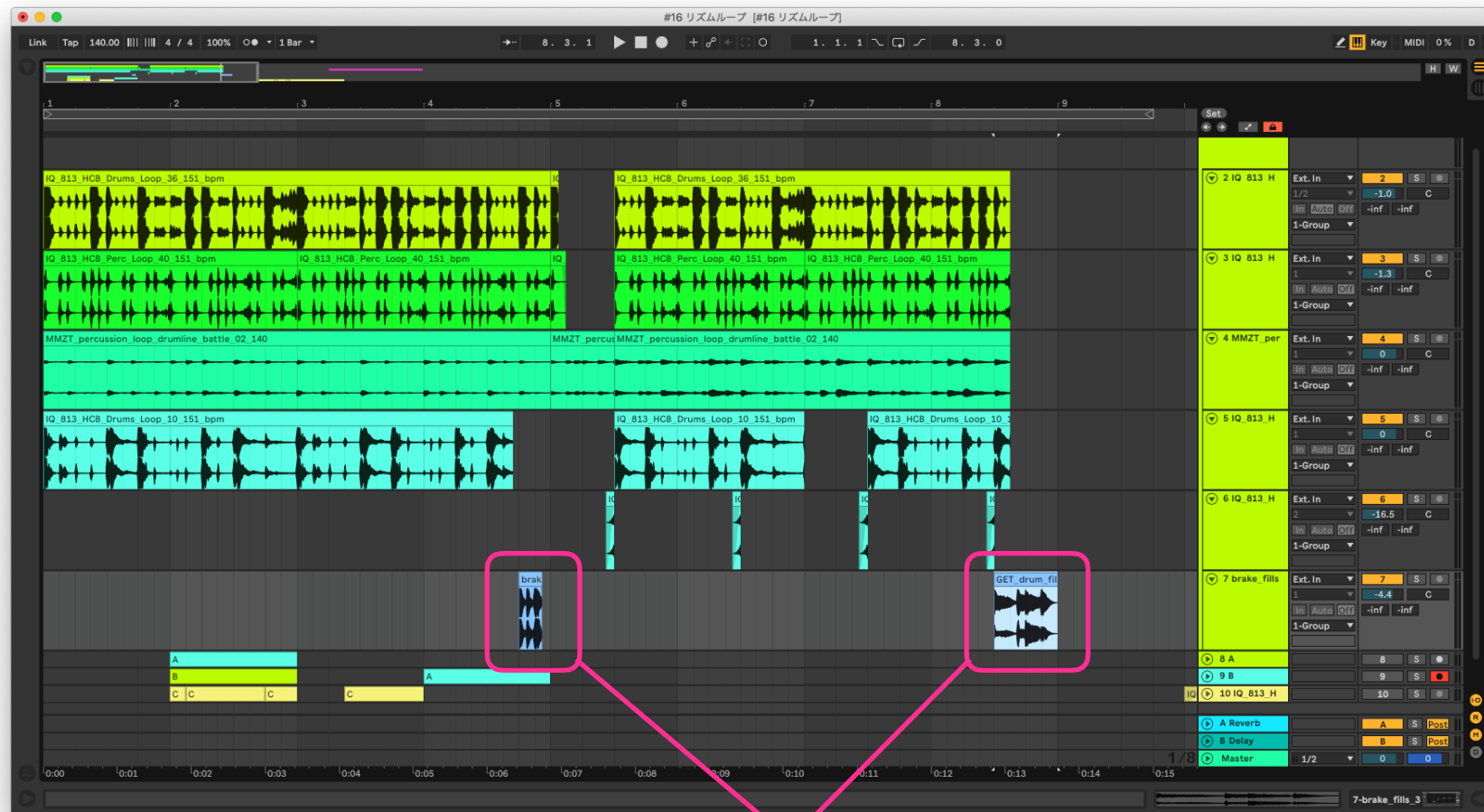
レイヤーその1： メインのドラム3点を補強するようなリズムループ

レイヤーその2： にぎやかしのためのリズムループ（ハイハットなど）

レイヤーその3： 味付け用のリズムループ（パーカッションなど）

4. リズムループをフィルなどで使う

フィルを作る場合、リズムループをばらして並び替えて作ることもあります。そのほかにもドラムフィル用のサンプルを使ったりもします。もちろん、そのサンプルを加工・編集して使う場合もあります。



フィル用のサンプル

実際の手順

1. メインのドラムパターンを作る。（ドラム3点で基本のリズムを作る）
2. メインのドラムを補うためのリズムループをレイヤーする。
（キックが含まれている場合は、ローカットを入れてキックのレベルを下げたり波形の編集をする）
3. にぎやかしのためのリズムループをレイヤーする。（ハイハットなどのリズムループ）
4. 味付け用のリズムループをレイヤーする。（パーカッションなど）

5. まとめ

リズムパターンに変化を持たせたいときや、新たに違う雰囲気でも豪華に演出したいときなどに便利な手法です。

いろいろな組み合わせを試し、試行錯誤を繰り返していきましょう。

組み合わせ次第で膨大なパターンを作り出すことができます。オリジナリティーを発揮して楽曲を豪華に演出していきましょう。

課題①

参考音源と同じリズムループを探し、同様の聞き映えになるよう加工してくる。

課題②

課題曲のリズムループ部分を好きなサンプルを使ってオリジナルのものを製作する。

ルール

1. 配布したトラックに合わせて打ち込むこと。
2. 提出の際はリズムループ部分のみが良い。
3. 限界までクオリティーにこだわること。
4. 提出の際はmp3で書き出し、フォルダに入れてzipに圧縮すること。
5. ファイル名は全て英語で「edm-kadai_16-1_sugimoto.mp3」のようにつける。
6. **ギガファイル便**などのストレージサービスを利用してアップロードし、ダウンロードリンクをメッセージかE-mailで送ってください。